道後温泉「ホテル葛城」創業60年機にリニューアル

道後温泉のホテル葛城グループ（大木正治社長）は、創業60年を機にリニューアルオープンした。3月26日に「ホテル葛城」を全館リニューアル。9月14日に「花ゆづき」の全室リニューアルを完了した。その概要を紹介する。

大木正治社長に聞く

大木正治社長にホテル葛城60周年への想いとこれから、今回の2施設のリニューアルのポイントなどを伺った。

――創業60周年を迎えられました。

「創業以来60年、心掛けてきたことは、常にお客さまとともにあり続けたいという想い。温かくお迎えし、温かくお見送りするまで至福の時間をお過ごしいただきたいという想いだ。60年という歳月は、人で言えば『還暦』に当たる。還暦と、それが、私たちのサービス精神であると思っている」

――次のステージに向かって、どのようなビジョンをお持ちですか。

「道後温泉という視点からではなく、この国の観光という視点から見る必要がある。ここ数年、日本の観光産業は大きく変化してきている。特に外国人観光客の増加が著しい。これは、急に始まったわけではない。小泉純一郎首相の時代からの『クールジャパン』『ビジットジャパン』といった地道な活動を、安倍晋三首相がインバウンド政策へとつなぎ、観光産業を国の基幹産業として位置付け、積極的に取り組んだ結果だ」

「外国人観光客の増加については、『2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでだろう』などとも言われるが、私は少し違った見方をしている」

「日常時」も「非常時」も快適に「フェーズフリー」に取り組む

――具体的には。

「中国人観光客を例に挙げると、3年ぐらい前は団体で来て、ブルドーザーのように商品を根こそぎ買いあさっていった。いわゆる『爆買い』だが、それは私たちが本当に来ていただきたいと考える観光客ではなかった。私たちは、買い物ばかりではなく、日本の歴史や文化にも触れていただきたいと思っている。そもそも爆買いの観光客は、商品が豊富にある大都市圏にしか興味を示さず、地方都市に魅力を感じてくれていなかった」

「ところが最近は様子が変わってきた。いざ日本に来てみると、街は清潔だし、人は優しいし、安全で自由。自分で調べたり、友人のインスタを見たりして、地方に魅力的な場所がたくさんあることにも気付いてくれた」

「先日、外国人の友人から『パリが世界一の観光地だとずっと思っていたけれど、観光資源は日本の方が比べ物にならないくらい豊富だよ』と聞かされた。日本全国に散りばめられた観光資源を上手に生かせば、東京オリンピック・パラリンピック以降も、外国人観光客は増え続けると思う。観光産業の関係者は、東京オリパラをゴールではなく、スタートラインと考えるべきだ」

――3月26日に全館リニューアルオープンした「葛城」は、「フェーズフリー」をコンセプトに掲げました。聞き慣れない言葉です。

「いつもの暮らしがある『日常時』と、災害が起きた『非常時』というように、二つの時間『フェーズ』について分けることをやめる、という概念だ。昔も今も、日本ではさまざまな災害が起き続けている。大きな災害の発生直後には社会的に高まる防災意識もいつしか薄れ、同じような悲劇が繰り返され続けている。それはなぜかというと、日常生活の中では、災害時に自分の周りでどのようなことが起こるのかがイメージしにくいからだ。そうすると、必要になるのは、防災のための特別なコトやモノではなく、日常時から『パリが世界一の観光地だとずっと思っていたけれど、観光資源は日本の方が比べ物にならないくらい豊富だよ』と聞かされた。日本全国に散りばめられた観光資源を上手に生かせば、東京オリンピック・パラリンピック以降も、外国人観光客は増え続けると思う。観光産業の関係者は、東京オリパラをゴールではなく、スタートラインと考えるべきだ」

――「葛城」に隣接する「花ゆづき」は、9月14日に全室リニューアルオープンした。こちらは館内、室内の装飾に「ギルディング和紙」を徹底的に取り入れましたね。

「愛媛県内子町にある『五十崎社中』にお願いして、国指定伝統工芸品の『大洲和紙』にギルディング加工を施した和紙を制作してもらった。ギルディングというのは、金属箔を使って、紙や木材、布などの上にデザインを施す手法。伝統産業を応援したい、道後からアートを発信したい、という想いで採用した」

――「葛城」「花ゆづき」のリニューアルでは、地元産の砥部焼とギルディング和紙を使われました。施工担当も地元の企業ですか。

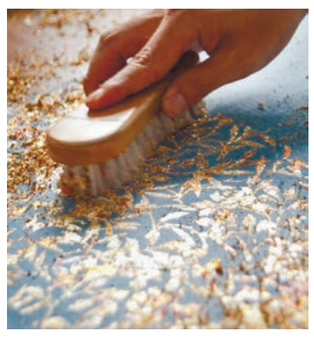
「松山に支店を置く住友林業ホームテックにお願いした」

ギルディング和紙の屏風（花ゆづき９階ホール）

地域の文化財・伝統工芸を活用

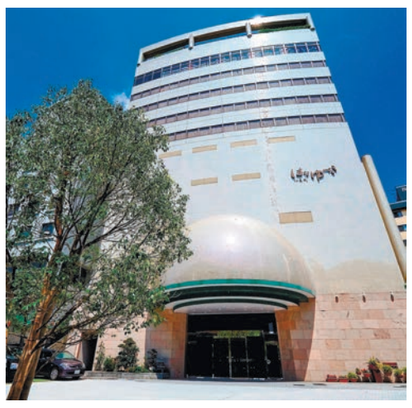
愛媛県指定無形文化財の陶磁器「砥部焼（とべやき）」の女性作家グループ「とべりて」の湯のみ。葛城の客室名表示にも、とべりての陶板が使われている。

とべりて湯のみ



ギルディング和紙

花ゆづきの館内、客室内装飾に用いられているギルディング和紙は、愛媛県内子町の五十崎社中が、国指定伝統工芸品の「大洲和紙」にギルディング加工を施し制作した作品。金属箔を使い、和紙の上にデザインを施す手法で、金属の酸化と腐食性の特徴を生かして独創的な美しい色合いを表現している。



「花ゆづき」全景

花ゆづきのリニューアルでは、高級装飾用和紙のギルディング和紙をふんだんに使用。パブリックスペースや客室壁など館内の至るところに配置することで、和のモダンアート空間を演出している。

和室ベッド

花スイート

和室

ロビー

葛城のリニューアルコンセプトは「フェーズフリー」。オープンタイプのストックルームを設けて「日常時」と「非常時」の境界をなくした。新設の「レディースルーム（女性パウダールーム）」には、フェイスケア機器やマッサージチェアも備え、利用率は高い。

（上右）とべりて陶板
（上中）レディースルーム
（上左）ストックルーム
（下右）玄関
（下左）デラックス和洋室

道後の宿　花ゆづき
TEL：089−943−3333
FAX：089−943−3581
URL：http://www.hotel-hanayuzuki.jp/
E-mail：info@hotel-hanayuzuki.jp

ホテル葛城 Spa Resort 道後
TEL：089−931−5141
FAX：089−945−4401
URL：http://www.hotel-katuragi.jp/
E-mail：info@hotel-katuragi.jp

ホテル葛城の歴史と未来

1947年10月　創業者・大木正成、東京・大阪・九州で船主として活躍
1949年2月　松山市玉川町で緑風荘有限会社を設立。旅館業に進出
1952年3月　大正汽船を創立
1959年10月　海運業中心の経営から宿泊業への転換を決意する
1960年1月　緑風荘を売却
同年2月　松山市道後湯月町でかつらぎ荘建築に着手
同年10月　かつらぎ荘完成。営業スタート
1963年6月　ホテルかつらぎ有限会社を設立
同年11月　かつらぎ荘を撤去。収容人数250名、鉄筋コンクリート構造7階のホテルを建築。名称を「ホテル葛城」に改称
1966年4月　収容人数350名、鉄筋コンクリート構造9階、300畳の大宴会場を擁する本館を建築
1967年6月　隣接地の湯香里旅館を買収。本館と接続させて3階建ての別館を建築
1970年10月　別館の上に4階分を増築。玄関も広げる
1973年2月　オイルショックの影響でダメージを受けるも、中間部分の土地を買収し、新館建築をスタート
1974年10月　収容人数600名、鉄筋コンクリート構造9階、道後温泉随一の新館が完成
1979年6月　消防法の改正に伴い本館・別館・新館すべてを「適マーク」に適合するよう改築。併せて大浴場を浮世絵大浴場に改築
1983年5月　ふるさと亭、クラブパスポート、喫茶コーナー、ビアホールを新設
1987年9月　長年の金刀比羅信仰が認められ、旅館業としては全国初の金刀比羅宮の分祀が認められる
1988年11月　隣接地を買収し、ホテル葛城「花ゆづき」の建築に着手
1990年11月　収容人数250名、鉄筋コンクリート11階建、アトリウム構造のホテル葛城「花ゆづき」竣工、オープン
1999年4月　役員改選に伴い三男・大木正治が代表取締役社長に、大木正成が代表取締役相談役に就任
2018年3月26日　ホテル葛城、全館リニューアルオープン
同年9月14日　花ゆづき、全室リニューアルオープン
2019年11月（予定）　隣接地に新ホテルオープン

住友林業株式会社
住友林業ホームテック株式会社

商業建築営業部
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-26
一ツ橋SIビル8階
TEL: 03-5217-6513 FAX: 03-5217-6607
www.sumirin-ht.co.jp

資料請求・お問合わせ
TEL.03-5217-6513
［受付時間］9：15〜17：30（水・日・祝は定休）

住友林業のリフォーム　検索

※ お客様から頂いた個人情報は、住宅のリフォーム等、当社事業のご案内に利用させていただきます。
詳細は当社ホームページ（https://www.sumirin-ht.co.jp/）をご参照ください。